

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立河内中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分ご理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

- ① 国語 103人
- ② 数学 103人

5 留意事項

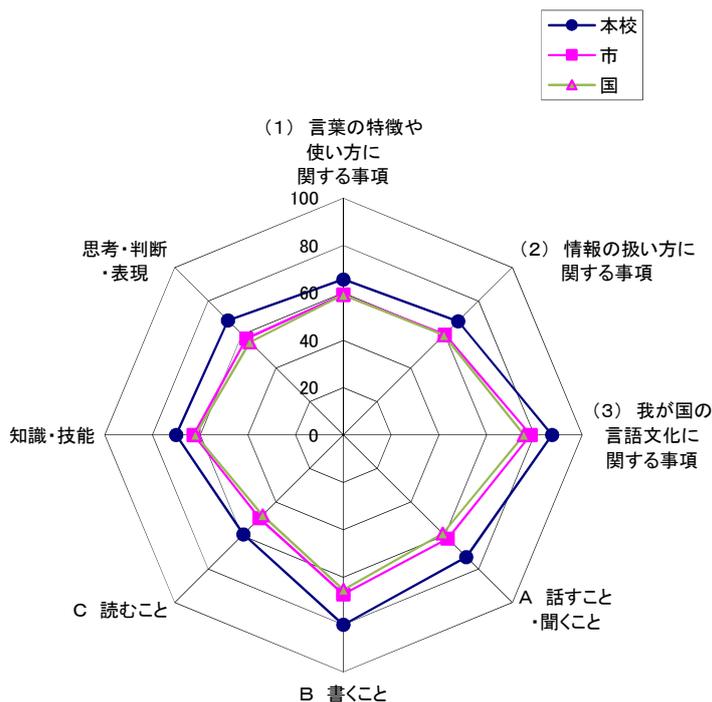
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立河内中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	65.7	59.3	59.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	68.0	60.0	59.6
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	87.4	78.4	75.6
	A 話すこと・聞くこと	72.8	61.8	58.8
	B 書くこと	80.1	67.2	65.3
	C 読むこと	59.2	49.7	47.9
観点	知識・技能	70.1	62.7	62.0
	思考・判断・表現	68.4	57.6	55.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

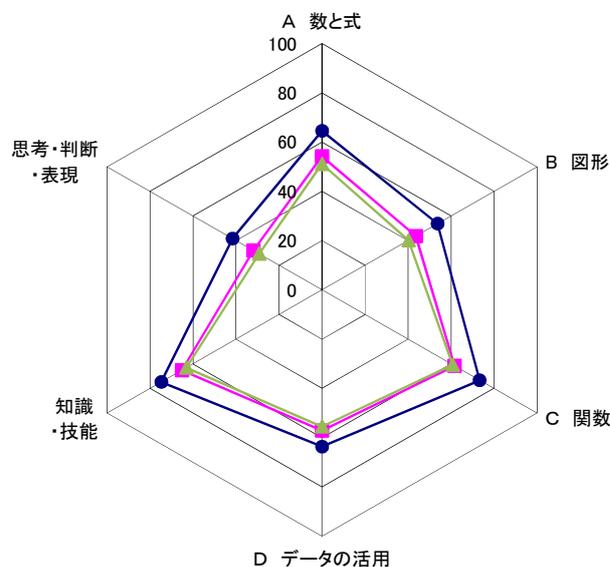
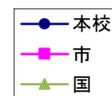
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	○国・市より平均正答率が約6ポイント上回っていることから、言語に関する知識を身に付けている生徒が多いと考えられる。 ●漢字の書き取りに関しては、無回答率が7.8%であり、文脈に即して記述することが苦手な生徒がやや多いように思われる。	・漢字の書き取りや表現技法などの言語に関する事項は高校入試に出題される項目である。また、社会生活を営む上でも必要不可欠なスキルであるため、1授業内で完結せず、他の単元や教科などでも活用できる授業展開を心がけていきたい。
(2) 情報の扱いに関する事項	○情報と情報の関係について、約7割の生徒が理解することができている。全ての生徒が無解答にすることなく、情報を読み解く姿勢が見られる。 ●本文と選択肢の相違点を見極めていくための単語の意味や文脈の捉え方が苦手な生徒もいると考えられる。	・授業内でも様々な文章を取り上げ、読み解いていく中で情報を取捨選択していく能力を培ってきたい。 ・図やグラフ、様々な文章を取り上げることで、必要な情報を読み取り、整理する力を付ける指導の充実を図ってきたい。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○正答率は国の平均より11.8ポイント、市の平均より9.0ポイント上回っており、楷書と行書の違いを理解している生徒が多い。 ●行書の特徴や書き方に関する知識が浅い生徒が一定数いるように思われる。	・書写の時間を活用し、楷書と行書の特徴を捉える機会を増やしていく必要がある。また、自分自身の経験や日常生活などと結び付けていけるように指導の充実を図ってきたい。
A 話すこと・聞くこと	○話し合いの中の内容を、正しく捉えることができた生徒は74.8%であった。自分の考えをまとめ、記述することに関しても68.9%の正答率であり、国や市の平均より20ポイント以上、上回っている。 ●自分の考えを、全ての条件に合わせて記述することに慣れていない生徒も多く見られる。	・普段の授業時から発表者の内容を聞き取り、重要な事柄を整理し、まとめる習慣を身に付けさせたい。また、要点を聞き取ることに自然と意識が向けられるような言葉掛けをしていきたい。 ・他の意見から自分の考え方をまとめ、共有する時間や発表の時間を設け、自身の内面に目を向けさせることで視野を広げるきっかけを作る授業展開を図ってきたい。
B 書くこと	○目的や意図に応じて資料を整理することだけでなく、工夫しながら文章を記述することができた生徒は8割を超えている。 ●表現を工夫しながら記述することに対して、無解答率や誤答が3割に上っていることから、知識としては身に付いているが、応用することができていない生徒も多いと考えられる。	・選択式の問いにおいては、選択肢の内容をしっかりと捉え正答を導き出すことができるが、記述式に関しては、苦手意識が強い。そのため、条件に応じた文章を書く機会を増やしていく必要がある。また、記述するだけでなく、生徒同士で読み合わせなどを行い、互いの良さを引き出す授業なども併せて行っていきたい。
C 読むこと	○正答率は国、市の平均より約10ポイント上回っている。特に文章中から主張と例示の関係性を捉える問題に関しては、正答率は7割を超えている。 ●約半数の生徒が、図と文章の関係性を考え、内容解釈に繋げていくことが苦手であるように思われる。	・文章読解はもちろんのこと、図やグラフが掲載されていることでどのような効果があるかを考えられるよう、授業で取り上げていきたい。

宇都宮市立河内中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	64.5	54.2	51.1
	B 図形	53.7	43.6	40.3
	C 関数	73.3	61.7	60.7
	D データの活用	63.6	57.1	55.5
観点	知識・技能	74.8	65.2	63.1
	思考・判断・表現	41.6	31.9	29.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	<p>平均正答率が市の平均よりも10.3ポイント、県の平均よりも13.2ポイント、全国よりも13.4ポイント高い。</p> <p>○「等式$6x+2y=1$をyについて解く」の正答率は、全国より14.5ポイント、県より17.1ポイント高い。また、「正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることの説明を完成する」では、全国より18.5ポイント、県より17.2ポイント高い。</p> <p>●「正四面体の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に入る整数の和と□に入れた整数の和について予想できることを説明する」では、無回答の生徒が19.4%おり、無回答率は全国や県より低い、分からない問題に取り組まない生徒が見られる。</p>	<p>・領域としては、全国・栃木県・宇都宮市より正答率が高いが、用語の意味を忘れてしまったり、分からない問題には取り組まなかったりする生徒が見られる。</p> <p>・今後は、計算問題を中心としたドリル学習を充実させるだけでなく、生徒同士の学び合いの場面で数学的用語を積極的に用いて説明し合う活動を多く取り入れていきたい。</p> <p>・また、問題の答えについてどうなるのかを予想させ、多角的・多面的に問題を捉える機会を多く取り入れていきたい。</p>
B 図形	<p>平均正答率が市の平均よりも10.1ポイント、県の平均よりも12.9ポイント、全国よりも13.4ポイント高い。</p> <p>○「点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、$\angle AQC$と$\angle BPC$の大きさについてかんがえていることの説明として正しいものを選ぶ」の正答率は、全国より18.0ポイント、県より17.2ポイント高い。</p> <p>●「点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、$AQ=PB$であることを、三角形の合同を基にして証明する」では、無回答の生徒が14.6%おり、無回答率は全国や県より低い、分からない問題に取り組まない生徒が見られる。</p>	<p>・三角形の合同条件を正しく覚えている生徒は多いが、合同条件を利用して証明を書くことは苦手である。特に、穴埋め式の証明ではなく自分で証明の筋道を立てて取り組むような問題では正答率が低くなる傾向がある。</p> <p>・今後は、基本的な証明問題を取り上げ、図形の見方や条件の記入の仕方、筋道を立てた証明の書き方など、一つ一つ丁寧に指導していきたい。また、証明問題に数多く取り組ませ、考え方に慣れるとともに自力解決や、筋道を立てる喜びを味わわせたい。</p>
C 関数	<p>平均正答率が市の平均よりも11.6ポイント、県の平均よりも12.6ポイント、全国よりも12.6ポイント高い。</p> <p>○「一次関数$y=ax+b$について、$a=1$、$b=1$のときのグラフに対して、bの値を変えずに、aの値を大きくしたときのグラフを選ぶ」の正答率は、全国より17.2ポイント、県より17.5ポイント高い。</p> <p>●「18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する」では無回答の生徒が11.7%おり、無回答率は全国や県より低い、分からない問題に取り組まない生徒が見られる。</p>	<p>・関数の学習に苦手意識をもつ生徒が多く、試行錯誤しながら最後まで自力解決を目指して挑戦しようとする生徒はあまり多くないのが現状である。そこで、最初は基本的な課題から取り組ませ、自力解決だけでなく友達と学び合う活動を取り入れながら関数の課題になれさせ、「表」「式」「グラフ」の見方やとらえ方を理解させていきたい。</p> <p>・今後は、小学校を含めた既習内容から丁寧に復習し、表やグラフの見方、読み取り方、式の表し方などを指導していきたい。</p>
D データの活用	<p>平均正答率が市の平均よりも6.5ポイント、県の平均よりも8.2ポイント、全国よりも8.1ポイント高い。</p> <p>○「車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ」の正答率は、全国より10.7ポイント、県より11.0ポイント高い。</p> <p>●「2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める」では、正答率は71.8%であるが、$1/3$と誤答している生徒が18.4%と全国より11.0ポイント、県より10.5ポイント高く、起こり得る全ての場合について十分に理解できていない生徒が見られる。</p>	<p>・領域としては、全国・栃木県・宇都宮市より正答率が高いが、他の領域と比べ、単元間で関連する内容が少なく、年度末に学習する内容のため意識的に取り扱わなければならないと、十分な定着を図ることが難しい。</p> <p>・今後は、数学の授業だけでなく普段の生活にもデータ活用を取り入れ、学校やクラスのアンケート調査の集計や傾向分析などにICT(タブレット)を活用して、技能の定着を図りたい。また、学習した内容を日常生活において積極的に生かしていけるように指導していきたい。</p>

宇都宮市立河内中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか。」の肯定的回答が、90.5%と県を8.4ポイント、全国を11.4ポイント上回っている。
 ○「毎日、同じ時間に寝ていますか。」の肯定的回答が、県を3.9ポイント、全国を6.0ポイント上回っている。
 ○「毎日、同じくらいの時刻に起きてますか。」の肯定的回答は94.3%で、県・全国を上回っている。
 →以上3点から、規則正しい生活をしていることが分かる。
 ○「普段、1日あたりどれくらいの時間テレビゲームをしますか。」について、4時間以上が8.6%と県を4.5ポイント、全国を8.0ポイント下回っており、1時間より少ないが30.5%と県を10.9ポイント、全国を12.8ポイント上回っている。
 ○「普段、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。」について、4時間以上が9.5%と県を4.9ポイント、全国を8.7ポイント下回っており、30分以上・1時間より少ない、30分より少ないの合計が27.6%と県を10.1ポイント、全国を11.1ポイント上回っている。
 ○「携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人との約束を守っていますか。」の肯定的回答は県を6.7ポイント、全国を9.7ポイント上回っている。また、携帯電話等を所持していない割合も8.6%と高い。
 →以上3点から、ゲームやSNS、動画視聴の時間等、家の人との約束を守り、行っていることがうかがえる。
 ○「自分には、よいところがあると思いますか。」の質問に、当てはまると回答した生徒は2.9%であり、県を20.3ポイント、全国を22.5ポイント上回っている。
 ○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の質問に、当てはまると回答した生徒は64.8%であり、県を12.3ポイント、全国を20.6ポイント上回っている。
 ○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」の質問に、当てはまると回答した生徒は41.9%であり、県を11.3ポイント、全国を13.2ポイント上回っている。
 ○「学校に行くのは楽しいと思いますか。」の質問に、当てはまると回答した生徒は58.1%であり、県を11.0ポイント、全国を14.6ポイント上回っている。
 ○「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。」の質問に、よくあると回答した生徒の割合は県を10.5ポイント、全国を13.5ポイント上回っている。
 →以上5点から、生徒自身の自己肯定感が高く、教職員にも認められているとの思いがあるため、学校に行くのが楽しいと感じている生徒が多いと考えられることができる。また、幸福感も高い。
 ○「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」の質問に、できていると回答した生徒の割合は、県を8.6ポイント、全国を9.9ポイント上回っている。
 ○「普段、1日あたりどれくらいの時間勉強しますか。」について、2時間以上が50.4%と県を19.2ポイント、全国を18.7ポイント上回っている。
 ○「土日学校が休みの日にどれくらい勉強をしますか。」について、2時間以上が62.9%と県を20.6ポイント、全国を26.7ポイント上回っている。
 →以上3点から、学び方を考え工夫しながら意欲的に学習に取り組んでいることが分かる。
 ▲「放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか。」では、部活動への参加が84.8%と高く、地域の活動に参加している割合は3.8%と低い。一部活動へ熱心に参加している反面、地域の活動や行事等への参加が少ないことが分かる。
 まとめて、本校3学年は規則正しい生活を送っており、一人一人の良さを認める環境も働き、自己肯定感が高く幸福感も高いことから、概ね精神的に安定した生活を送れているように思う。精神的安定が、学習意欲を高めていることにつながっている。今後は、自分たちだけではなく、地域や社会と関わる体験を通じ、視野を広げられるような取組を考えていきたい。

宇都宮市立河内中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
言語活動の充実によるコミュニケーション能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びのある授業実践 各教科や総合的な学習の時間に課題解決的な学習を進める。 言語に対する関心や理解を高め、言語環境を整えるとともに、各教科での言語活動を充実させる。そのためのツールとしてICT機器の利用や活用を努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「即興で自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたか。」に対し、当てはまるが44.8%と県を9.8ポイント、全国を16.7ポイント上回っている。 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことなどを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」の肯定的回答が97.1%である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「新聞を読んでいますか」の質問に対し、ほぼ毎日読んでいるが1.9%、週に1～3回程度が3.8%、月に1～3回程度が17.1%、ほとんど又は全く読まないが76.2%であった。新聞を読むという習慣がほぼないにひとしい状況にある。	新聞への興味・関心を高めるための工夫をする。	<ul style="list-style-type: none"> 各教科(特に社会科や総合的な学習の時間)において、意識的に新聞を活用した授業を行う。 図書委員が中心となり新聞コンテストの掲示物や新聞を壁面に掲示するなど、学校司書が新聞へ慣れ親しめるよう積極的に活動を行っている。その取組を全校生徒に周知し、新聞への興味・関心を高められるようにする。